

全体版の概要 埼玉県四半期経営動向調査(平成20年10～12月期)

I 調査結果の総括

1 県内中小企業の経営動向

総括

県内中小企業の経営状況は、悪化が続いている。
今後については、一段の悪化が懸念される。

2 県内中小企業の経営者からみた経営動向

(1) アンケート調査結果から

- 経営者の景況感／景況感DIは▲88.7で、前期比10.0ポイント低下。7期連続で悪化。
- 今後の景気見通し／「悪い方向に向かう」とみる企業が、前期に比べ増加。
- 売上げ／4期連続で減少し、来期も引き続き減少する見通し。
- 資金繰り／4期連続で悪化し、来期も引き続き悪化する見通し。
- 採算／6期連続で悪化し、来期も引き続き悪化する見通し。
- 設備投資／実施率は2期連続で低下し、来期も引き続き低下する見通し。

(2) ヒアリング調査結果から

- 経営者の景況感
 - 【製造業】 悪化している
 - 【小売業】 弱い動きがみられる
 - 【情報サービス業】 おおむね横ばいで推移している
 - 【建設業】 悪化が続いている
 - 【運輸業】 悪化が続いている

3 特別調査事項「取引先金融機関の貸出姿勢等について」

特別調査事項として、取引先金融機関の貸出姿勢等について、県内中小企業に聞いたところ、次のような結果となった。

- 1年前と比べた現在の取引先金融機関の貸出態度は、7割の企業が「ほとんど変わらない」とするものの、「厳しくなった」とする企業が27.7%と、前年(12.5%)に比べ大幅に増加した。
- 貸出態度が厳しくなった理由は、「新規貸出の拒否」(51.4%)が最も多く、次いで「担保・保証条件の厳格化」ならびに「審査期間の長期化」(32.9%)となっている。

- 貸出態度が厳しくなったことへの対応は、「預貯金の取り崩し」（４９．０％）が最も多く、次いで「賃金・賞与の抑制」（４１．４％）となっている。
- 県制度融資に期待することは、「低金利」（７１．５％）が最も多く、次いで「無担保・無保証人」（５２．２％）となっている。

II 調査要領

1 調査の対象

県内中小企業

2 調査の方法

(1)書面及びインターネットによるアンケート調査
問ヒアリング

(2)業界団体及び個別企業への訪問ヒアリング

3 調査対象期間

平成20年10～12月(調査時期:平成20年12月)

4 調査対象業種及び回答数

① アンケート調査・・・景況感など、特別調査事項

- ・ 製造業： 960企業中、回答数 676 (回答率70.4%)
- ・ 非製造業： 1,240企業中、回答数 842 (回答率67.9%)
- 計： 2,200企業中、回答数 1,518 (回答率69.0%)

※製造業（12業種）：食料品、衣服・その他の繊維製品、家具・装備品、パルプ・紙・紙加工品、印刷業、プラスチック製品、鉄鋼業・非鉄金属、金属製品、一般機械器具、電気機械器具、輸送用機械器具、精密機械器具

※非製造業（7業種）：建設業、卸売・小売業、飲食店、情報サービス業、運輸業、不動産業、サービス業

②ヒアリング調査

- ・ 製造業： 21企業・組合
- ・ 小売業： 9企業・商店街
- ・ 情報サービス業： 3企業
- ・ 建設業： 3企業
- ・ 運輸業： 3企業
- 計： 39企業等

5 実施機関

埼玉県産業労働部産業労働政策課及び埼玉県企画財政部地域振興センター

III 調査結果概要

1 アンケート調査結果の概況

1 経営者の景況感と今後の景気見通し

景況感は7期連続で悪化し、来期も引き続き悪化する見通し。

業種別にみると、製造業は9期連続で、非製造業は7期連続で悪化した。

〈景況感DI：前期 → 当期（前年同期）〉

- ・全体：▲78.7 → ▲88.7（▲57.2）
- ・製造業：▲73.3 → ▲89.8（▲49.2）
- ・非製造業：▲83.0 → ▲87.8（▲63.4）

〈「良い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：1.4% → 1.3%
- ・製造業：1.3% → 1.3%
- ・非製造業：1.4% → 1.3%

〈「悪い方向に向かう」と回答した企業割合：前期→当期〉

- ・全体：62.2% → 76.5%
- ・製造業：57.1% → 76.7%
- ・非製造業：66.2% → 76.3%

2 売上げについて

4期連続で減少し、来期も引き続き減少する見通し。

当期の売上げDIは、製造業、非製造業ともに4期連続で悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに、当期の売上げDIを下回る見通しである。

〈売上げDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲42.5 → ▲48.2（▲8.1） → ▲59.7
- ・製造業：▲40.3 → ▲51.6（▲2.8） → ▲63.4
- ・非製造業：▲44.3 → ▲45.5（▲12.2） → ▲56.7

3 資金繰りについて

4期連続で悪化し、来期も引き続き悪化する見通し。

当期の資金繰りDIは、製造業は4期連続、非製造業は6期連続で悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに、当期の資金繰りDIを下回る見通しである。

〈資金繰りDI：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

- ・全体：▲42.3 → ▲51.2（▲20.4） → ▲57.5
- ・製造業：▲41.1 → ▲52.5（▲16.7） → ▲61.2
- ・非製造業：▲43.2 → ▲50.2（▲23.2） → ▲54.4

4 採算について

6期連続で悪化し、来期も引き続き悪化する見通し。

当期の採算D Iは、製造業は4期連続、非製造業は6期連続で悪化した。

来期については、製造業、非製造業ともに、当期の採算D Iを下回る見通しである。

〈採算D I：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

・全体：▲56.8 → ▲63.6（▲32.6） → ▲65.5

・製造業：▲57.5 → ▲66.2（▲28.8） → ▲69.0

・非製造業：▲56.3 → ▲61.5（▲35.6） → ▲62.6

5 設備投資の動向について

実施率は、2期連続で低下し、来期も引き続き低下する見通し。

実施率は、製造業は2期連続で低下したが、非製造業はほぼ横ばいだった。

来期については、製造業、非製造業ともに、当期の実施率を下回る見通しである。

〈設備投資実施率：前期 → 当期（前年同期） → 来期〉

・全体：19.5% → 17.0%（21.4%） → 11.1%

・製造業：25.2% → 19.3%（25.0%） → 13.8%

・非製造業：14.9% → 15.1%（18.6%） → 9.0%

2 ヒアリング調査結果の概況

（1）製造業 悪化している

【売上げ】減少した企業が多かった。

【原材料価格】ステンレスや鉄スクラップなど、下がった材料もあるが、高止まっている材料が多く、多くの企業が変わらないとしている。

【受注単価】ほぼすべての企業が「下がった」あるいは「変わらない」としている。

【採算性】売上げの減少に伴い、悪化した企業が多かった。

【設備投資】プラスチック製品や輸送用機械器具、印刷業で、実施した企業が多かった。
今後については、予定のない企業が多い。

（2）小売業 弱い動きがみられる

（3）情報サービス業 おおむね横ばいで推移している

（4）建設業 悪化が続いている

（5）運輸業 悪化が続いている

3 特別調査事項結果の概況 「取引先金融機関の貸出姿勢等について」

1 取引先金融機関の貸出態度について

(1) 1年前と比べた、現在の取引先金融機関の貸出態度

「ほとんど変わらない」 70.2% 「厳しくなった」 27.7% 「緩やかになった」 2.1%

(2) 貸出態度が厳しくなった理由（複数回答）

「新規貸出の拒否」	51.4%	「担保・保証条件の厳格化」	32.9%
「審査期間の長期化」	32.9%	「金利引き上げ」	22.9%
「繰上返済の要求」	8.0%	「その他」	6.4%

(3) 貸出態度が厳しくなったことへの対応（複数回答）

「預貯金の取り崩し」	49.0%	「賃金・賞与の抑制」	41.4%
「従業員の削減」	28.1%	「合理化によるコスト削減」	27.5%
「設備投資の抑制」	25.9%	「事業の整理・縮小」	18.5%
「他の金融機関への借換」	16.6%	「その他」	4.4%
「特になし」	7.6%		

2 県制度融資に期待すること（複数回答）

「低金利」	71.5%	「無担保・無保証人」	52.2%
「手続の簡素化」	40.4%	「長期・固定金利の融資」	33.1%
「融資実行までの期間短縮」	31.3%	「その他」	2.0%

[このページに関するお問い合わせ先]

産業労働部産業労働政策課 調査分析担当 Tel:048-830-3723 Fax:048-830-4818 E-mail:a3710@pref.saitama.lg.jp